

政治史として見るべきものなり。(龍門社發行價貳〇、〇〇〔西田〕)

●法制を中心とせる江戸時代史論 吳文炳著

内面的にも外面的にも發展せんとする現代を十分に理解せんと
ならば、其前時代の如何なるものなりしやを研究せざるべからず
この信念を有する著者が、慶應義塾在學中に專攻せる學科に縁あ
る法制を中心として江戸時代を考察したるものなり。第一に概論
に於て徳川家康が團體運動の禁止と新主義の抑壓とに全力を盡せ
る消極的態度を説き、貞永式目が神佛の事を第一に置けるに對し
て家康の武家法度が學問獎勵を第一とせる點に兩法制の差を認め
家康の壓制主義は彼獨特のものなりや又は前時代の影響なりやと
て室町時代以降戰國時代の諸家の法制と比較して、建武式目、大
内氏壁書、朝倉教景十七ヶ條、信玄家法等の影響を受け、法制と
言ふよりも寧ろ諸侯制御策なりとし、家康の此國家統一幕府維持
の思想は我國民文化の發展を阻害せりとて鎖國問題を論じ、海外
文化の輸入によりて外國に向つて開放されたる日本に天主教の流
行となり又其禁止となり、此新思想を抑壓せんとする家康の政策
が鎖國思想となりしものにして偷安思想の發現とすべく、其政策
が一種の國產獎勵策となりしと雖も、工業的發展を阻止し、新思
想の輸入杜絶となり、我國民文化の發達を遲延せしめたりしは幕
府の執りし政策の誤なりと斷じたる點は著者の最も力を致せし章

なるべく、社會組織の章に於て、階級制度の起源と其性質、旗本

與力同心仲間、浪人問題、商人生活、工人生活、農民生活の五項

に分ちて階級制度の時代を説き、一般世態論の章に於ては仇討、

御家騒動、祭禮、劍客に就て論評し、泰平の歡樂と封建の殺伐と

の矛盾せる状態なりとし、新家族制度の發達に於て大名の相續問

題、養子問題を論じ、幕府は大名に對しても次第に領地沒收を避

け長嫡子を重んじ全領土を繼承せしむる事を以て機宜に適する事

多きを知り、機變遷の後に漸次家族制度の確立を見たりとし、

幕府の經濟政策としては幾十回となく發布されし儉約令の無効を

説き、爲政者に經濟政策を云爲するものなしとし、幕府の貨幣制

度、水陸の交通、外國貿易の章を経て都市の發展、都市、村落の

特殊機關、座に關する研究を述べ、社會問題として奴隸問題附無

職業者及私法的規定の二項に分ち前者に於ては唐人、傭座、乞丐

に對する法の規定を、後者に於ては、質、貸借に關する法の規定

を説明し、筆を轉じて此時代の學藝、藝術、宗教の三章に於て各

文化的方面を觀察せり。菊版三三二頁(白水社發行、價貳、〇〇)

〔中村〕

●諸地理歴史報告 第四 東京帝國大學文科大學

本書は大正四年一月に於ける南滿洲鐵株式會社の提供に基き

て編纂發行せられたる滿州朝鮮の地理歴史研究報告の第四冊にして去る四月の發刊に係る。收むる所都て五種の研究(一)契丹の國軍編制及び戰術(松井等)は兵種、徵集、兵力、團隊の組織任務及び名號、行軍戰陣と軍隊區分、宿營給養及輜重の六項に分つて一詳密なる研究を加へ(二)宋對契丹の戰略、地理(同氏)は燕雲十六州及び三關、遼、北漢、宋の相互關係位置、西方地區に於ける宋の警戒線、東方地區に於ける宋の警戒線、紡禦線としての塘潑、防禦線としての黃河、契丹の南方出動に關する地理の七項に分ちて之を研究し(三)金代北邊考、津田左右吉)は東北路招討司及び臨潢府方面の邊堡、蒲輿路及び上京路方面の二者に分ち(四)蒙古の高麗經略(箭内互)は太祖の救援、太宗の征伐、定宗憲宗の征伐、結言に分ち、附録として蒙使著古與の遺難、撒兒古と札剌亦兒古を添ふ(五)鮮初、東北境と女真との關係(池内宏)は前回の續編にして主として慶源府の復置と富居に於ける慶源府とを研究し之を鏡城古慶源間の驛站、慶源府内の地名、慶源府復置の事情、復置の慶源府と富居の慶源府、富居の慶源を退くるの諺、寧北鎮の設置等に分つて研究せり。以上五種の研究を以て三六五頁の大冊を成す其詳密の度知るべし。附圖として鮮初東北境經略圖添ふ。

●支那古代史

西山榮久補譯

本書は支那學研究の泰斗なる獨逸人 Friedrich Hirth 氏が西歷

千九百零七年に米國コロンビア大學に支那史を講ずる傍、其の研究を發表したる The Ancient History of China を邦文に翻譯したるものなり、譯者西山氏は是に最新支那大地理を著したることある支那研究の熱心家 Hirth の原著に親しむ機會多き吾人は今此の書の刊行あるを知りて多大の興味と注意を拂ふなり。原本は八章六十七節より成れるが、本書の精密丁寧に譯述せるは譯者の勞を多とすべし、譯文は務めて直譯を避け、なるべく雅馴且つ平易ならむことに務めたるも、文意改變の跡無く、而も往々にして Hirth 氏の記憶上の誤より來れる記述は一一之に補註訂正を加へ地名人名等の漢字も慎重の態度を以てこれを充當せり。原書愛讀の人士には必しも必要を認めざれども、一般讀書界の好讀物と価値ある書と謂ふに足らむ(三省堂發行價二、五〇)(以上那波)

の六朝墓誌書英

羅振玉編

本書は羅叔叙言が六朝時代の墓誌の特に優秀なるものを集めて其の文字拓本を玻璃版に附したるものにして、墓誌の盛なる李唐以前の面影を偲ばしめむとするものなり、收むる所宋にては懿德侯劉懷民墓誌、魏にては江陽王次妃石夫人、安樂王元詮、梁州刺史元演、元處妻、荊州刺史元暉、濟州刺史楊允、齊郡王元祐、宮第一品張、傳縣王遣女、敦煌鎮尉元悅、齊郡王妃常氏、東豫州刺史元顯魏、富平伯于曇、趙郡宣恭王元毓、瀛州刺史李彰の各墓誌